

国立大学法人富山大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを理念としている。第2期中期目標期間においては、教養教育と専門教育の充実を通じて、幅広い職業人並びに国際的にも通用する高度な専門職業人を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、グローバル人材の育成に努めるため、「富山大学国際インターンシップ導入方針」を作成し、学生が海外においてインターンシップを行う際の方針を明らかにするなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(機能強化に向けた取組状況)

学長のリーダーシップの下で、戦略的に大学を運営できるガバナンス体制を構築するため、学部長や附属病院長等の選考方法について、各教授会から複数人の候補者の推薦を求めた上で学長が最終的に決定する仕組みとしたほか、人事・給与システムの弾力化として、平成27年4月から年俸制を導入することを決定し、関係規則を制定している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 地方創生や地域活性化を推進するための体制整備

全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を推進することにより、地方創生に貢献するため、平成27年4月から学長を本部長とした「地域活性化推進本部」を設置することを決定しており、地域を志向した教育・研究・社会貢献に係る基本方針及び施策の策定や評価に関すること、及びその他地域活性化に必要な事項について審議することとしている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

〔2〕財務内容の改善に関する目標

- 〔①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善〕

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

〔3〕自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- 〔①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進〕

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ ユーザビリティを意識したウェブサイトの改善

大学ウェブサイトについて、リンク名を見直しリンク先のページ内容を推測できる明確なものに変更するとともに、文字のコントラストを高めて読みやすくしたほか、情報量を2スクリーン以内に厳選することで構成をわかりやすくするなど、ユーザビリティを意識した改善を行った結果、民間会社が行った「全国大学サイト・ユーザビリティ調査2014/2015」において、総合スコアランキングで1位を獲得している。

○ マスメディアを活用した広報の取組

富山大学が文化、知識の発信拠点として地域にどのような役割を果たしてきたかを広く県民に発信するため、大学の歴史を紹介する番組「富山大学ヒストリア」を制作したほか、国際情報番組「地球アゴラ」にて人文学部や工学部等の取組を発信するなど、TVメディアを活用した情報発信を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

〔4〕その他業務運営に関する重要目標

- 〔①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守〕

平成26年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 遺伝子組換え生物等の不適切な使用等

不十分な不活化措置等により、遺伝子組換えラットが生きた状態で死体一時保管冷凍庫にて発見されたことについては、遺伝子組換え生物等の適切な取扱いを徹底するなど、再発防止に努めることが望まれる。

○ 研究活動における不正行為

大学院理工学研究部の教授及び准教授や芸術文化学部准教授について、学会誌に掲載された論文に重複投稿を行っていた事例があったことから、研究倫理教育の強化を図るなど、再発防止に向けた組織的な取組を行うことが求められる。

○ 国立大学病院管理会計システムの利用における課題

会計検査院から指摘を受けた、国立大学病院管理会計システム（HOMAS）の継続的な利用に至らなかったなどの問題点について十分検討し、導入が予定されている次期システムを効果的かつ継続的に利用するために、次期システムの利用方針等を明確にするなどして、その利用に必要な体制の整備を図ることが望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 10 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 25 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 地域連携を授業に取り入れるための取組

芸術文化学部では、これまで学生が自主的に取り組んできた地域と連携した活動を、新たに「プロジェクト授業」という科目カテゴリーとして単位化するとともに、既存の授業のうち地域連携の要素を含むものを「地域連携授業」という科目カテゴリーとし、実施に必要な経費を配分するなど、地域連携に係る支援体制を整えている。

○ 学生のグローバル化に対応したキャリア支援・就職支援の充実

グローバル人材の育成に努めるため、「富山大学国際インターンシップ導入方針」を作成し、学生が海外における民間企業や団体等においてインターンシップを行う際の方針を明らかにするとともに、一般社団法人中部産業連盟と連携し留学生向けの就職説明会を企画・実施した結果、平成 26 年度末の卒業・修了者で日本国内に就職した留学生が倍増するなど、グローバル化に対応したキャリア支援・就職支援を充実させている。

○ 企業との共同開発による新薬の創出

富山県内企業と抗インフルエンザ薬の共同開発を行った結果、新型インフルエンザ及び再興型インフルエンザの治療薬として厚生労働省に承認されており、本治療薬はインフルエンザだけでなく、西アフリカで発症したエボラ出血熱の治療薬としても効果を上げている。

○ 県や教育委員会と連携した小中学生向け体験型学習の実施

薬剤師の業務や医療における薬の重要性を知ってもらうため、富山県厚生部くすり

政策課及び富山県教育委員会と連携して、小中学生を対象に薬剤師体験型学習「未来の薬剤師大集合!!!」を開催し、薬剤師が日常の業務で用いている本物の器具や作業台で、薬に見立てた食品等を用いて、散剤・錠剤・水剤・軟膏剤の調剤などを体験しており、平成26年度は312名が受講している。

○ 地域活性化を担う人材育成のための体制強化

企業・金融・行政・大学が地域課題を共有し、ビジネス手法を用いた解決を図っていくため、高岡市との共同主催により「たかおか共創ビジネス研究所」を設立し、地域の課題解決と経済活性化の実現に貢献する人材を育成することとしており、先駆的事例や地域を取り巻く状況等の情報提供、地域課題解決型の演習やゼミ形式による講義・討議、企業訪問やプレゼン演習等の3段階のカリキュラムを実施している。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 研修医増加に向けた取組

臨床研修担当者会議等を通じて協力病院や協力施設を増やし、研修プログラムの充実を図るとともに、病院長と研修医との懇談会、医学生（5、6年次生）に対する臨床研修説明会や懇談会、個別面談を継続的に行い、臨床研修プログラムの特徴を積極的にPRするなど、初期臨床研修希望者の増加に努めた結果、初期研修医は21%、後期研修医は22%の増加（対平成21年度比）となっている。

(診療面)

○ 薬剤師の配置による医師負担軽減及び手術件数の増加

手術部に薬剤師を配置し薬剤管理業務を行うことにより、麻酔科医が麻酔業務に専念できる体制を整備した結果、医師の負担軽減が図られ、手術件数が増加（対前年度比280件増）している。

(運営面)

○ 女性医師等の勤務継続支援・復帰支援

女性医師等の勤務継続支援・復帰支援として、附属病院保育所（スマイルキッズ）及び病児病後児保育室（たんぽぽルーム）の設置や、医療技術トレーニングシミュレーターを整備し、復帰する女性医師に対する教育指導体制の充実を図った結果、女性医師等の育児休業からの復帰率は95.8%となっている。